



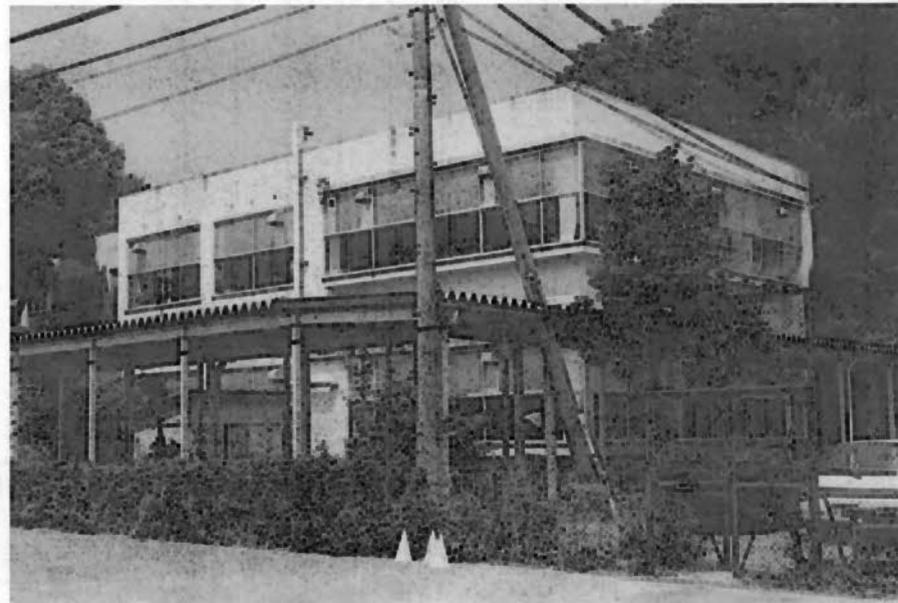
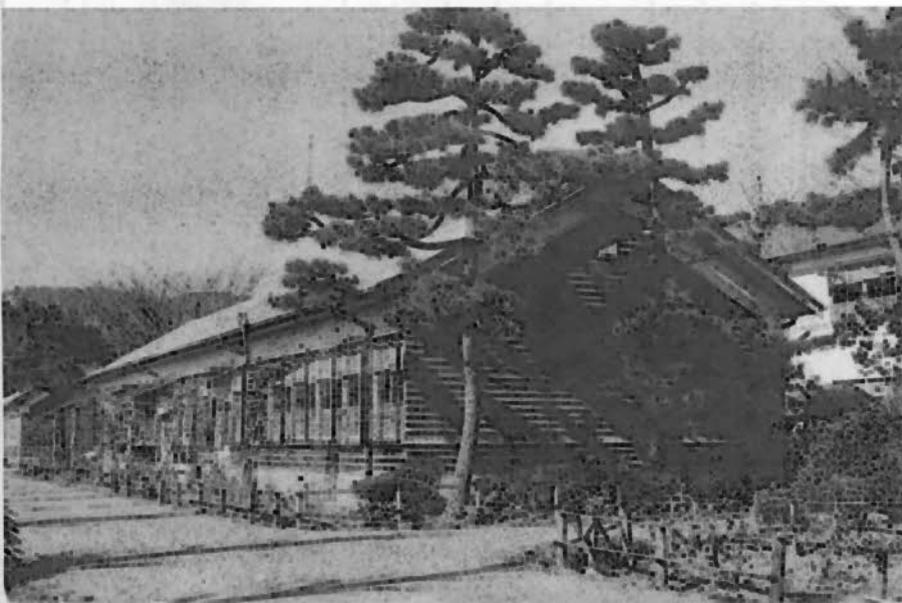
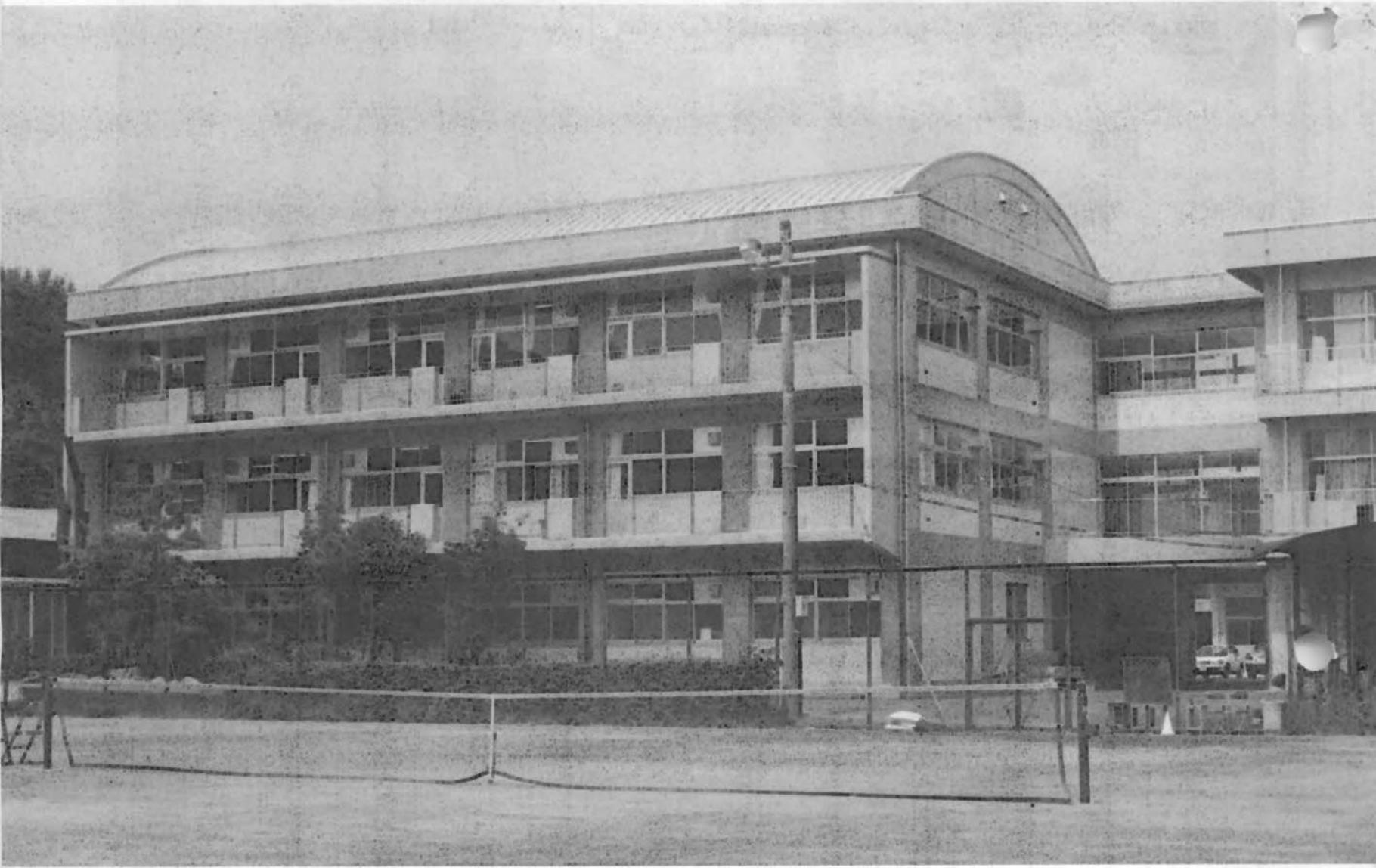
高崎高校同窓会報

2001

第35号

平成13年11月30日

特集／来年50回を迎える「翠巒祭について」





GRAPH
FILE

写真左から3人目：関東大会ハードル競技で優勝した北嶋将志選手

高高同窓会 No. 35 目次

あいさつ	母校への期待	同窓会会長 横田 英一 3
ごあいさつ	校長 小林 克茂 4	
第百回卒業式に参加して	同窓会副会長 田中 順 4	
21世紀を迎えて	同窓会副会長 有田 喜一 5	
校歌に寄せて	通信制教頭 塩崎 猛雄 5	
特別寄稿		
新通学路	42期 内山 信次 6	
バラ園のこと	62期 佐藤 晃一 7	
青春へのいざない	72期 下村 博文 8	
教育とコンピュータにたずさわって	82期 小西 克哉 9	
特集		
●米年50回を迎える「翠情祭」について	85期 松本 正志 10	
論壇		
冷戦の半世紀	52期 岩崎 允彦 12	
同窓会だより		
高々関西同窓会の今昔	54期 清水 英人 13	
五〇会(卒業後五十年記念)同窓会	50期 八木 實親 13	
同窓会だより		
●卒業生の作品紹介①	26期 松本 由義 14	
●褒章・叙勲者紹介		
●翠情文庫		
母校だより		
各部の活躍・活動	16・17	18
第五十五回定期戦		
最近の進学状況		
人事異動		
同窓会会計報告、新年総会案内、ゴルフコンペ報告、編集後記		
	20	19



母校への期待

同窓会会長 横田 英一

今年、七月中の暑さに悩まされ、酷暑の夏がいつまで続くのだろうと危惧したのですが、今は、季節の移ろいの確かさや自然の風物の落ち着きを肌身でもって感じております。この会報が皆様のお手元へと届くころには、ちらほらと雪の便りも聞こえているのではないのでしょうか。

同窓の諸兄におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より同窓会の活動に格別なご協力を賜っておりますことに対して、深く感謝申し上げます。昨年、会報の紙上において、私がお願い申し上げました維持会費の納入につきまして、本年は大勢の方がお納め下さいました。本同窓会に寄せる皆様の熱き心を感じるとともに、それに応えるべく、充実した活動を展開してゆかなければならないと、決意を新たにしました次第であります。

私は今、「開かれた同窓会」ということを考えております。年に一度の会報だけでは、情報不足の感は否めません。そこで、「同窓会のホームページ」を通じて、様々なニュースを会員の皆様にお届けできるように努めて

まいります。同窓会からのお知らせ、トピックス、関連行事等を随時更新しながら、情報を提供させていただきまします。その中でも、会員の活動状況を知悉することが最も難しいと思っておりますので、皆様のお声や友人の近況を「Eメール」などを通じて是非ともお聞かせ下さい。

さて、二十一世紀を迎えた最初の年、母校高崎高校は文武両道においてすばらしい成果を上げると同時に、社会に目を向けた学校へと変化を遂げようとしております。学校評議会の開催によって、地域に住む様々な人からのご意見をいただきながら、これからの高崎のあるべき姿について討議を重ね、また、「翠巒セミナー」では同窓諸兄を講師として、保護者・先生・生徒を対象に、示唆に富んだ有意義な講演を絶えず行なっていたりなど、発展を求めてやまない母校のたくましい気風に意を強くするものであります。

様々な取り組みが行なわれている中で、今年、特筆すべきものとして、一年生全員が夏休み中に行なったボランティア活動があります。地域の清掃活動や街頭での募金活動、学

童保育や選挙管理事務所での手伝い、伝統芸能の継承、病院での介護など、生徒たちの活動の場面も多岐にわたっていたようです。多様で多彩な人たちと、様々な機会に、様々な場所で相互行為をすることで、子どもたちは、相手の立場に立つことの難しさや大切さを学ぶのではないのでしょうか。他人のために、勇気をもって行なう利他的行為が、自らをも潤す互恵性を秘めていることに必ず気づくはずで。また、ボランティア活動は、高齢者や障害者の人権課題について考えるきっかけにもなります。他者への熱い共感を動力にして、社会の改良と変革の必要性を認め、向社会的な活動に対して力を注ぐ若者が増えることも期待できます。

座学だけにとどまることなく、母校高崎が、「隼より始めよ」の精神でもって社会に目を向けた若者の育成を視野に入れて、いることをとても心強く思っています。

母校や社会がさらなる発展を遂げるために、今後とも同窓諸兄のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

(群馬トヨタ自動車㈱代表取締役社長50期)



いじめごめん

学校長 小林 克茂

同窓会報第三十五号の発刊を心からお慶び申し上げます。

桜井前校長の後任としてお世話になることとなりました小林と申します。

文武両道を標榜し、県内屈指の進学実績を収めている高崎高校に赴任し、身の引き締まる思いと同時に与えられた責任の重さを痛感しています。

同窓会の皆様には、常日頃から本校の充実・発展に多大なご支援・ご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。また、深く感謝申し上げます。ご指導のほど、宜しくお願い申しあげます。

お陰様を持ちまして、本校の教育活動は順調に推移し、生徒は勉強に部活動に毎日精を出しております。本校の進路状況を初めとする学習活動の様子は、会報後半にある「母校だより」に詳しく掲載されておりますので、割愛させていただきますが、高崎の良き伝統を守るため、職員・生徒とも頑張っています。

さて、二十一世紀という新しい時代の産みの苦しみというか、日本全体が改革の嵐の中、経済不況が続いています。一日も早い経済の明るさと、先が見える社会を期待している今日この頃です。

教育界も状況は同じで、少子化が進む中、新しい教育の在り方を求め、教育改

革が積極的に進められています。

学校では来年度から学校完全週五日制が始まり、再来年度からは新教育課程が実施されます。近年、大学生の学力低下問題が大きな話題となっておりますが、高校にとっても状況は同じで、早急に検討する必要性を感じています。

本校は平成十五年度からの新教育課程実施を踏まえ、来年度から今までの三学期制を改め二学期制に移行します。また、従前の修学旅行を企業・研究所訪問を中心とした研修旅行に衣替えします。更に、完全週休二日制を目前に、その対応を検討しています。課題は山積していますが、果敢に挑戦したいと考えています。

過日、PTA全国大会でお茶の水女子大学教授藤原正彦先生の話を聞きました。先生は数学者で、最近の知識偏重を軽んずる傾向と美しい言葉(勉強が全てでないという)の氾濫を憂っていました。大人は学ぶことの大切さを子供に教えないければならない。そして、これからの人間にとって一番大切なことは、「情緒力」を身に付けることである、と力説されてきました。その情緒力を身に付けるには、その国の歴史や文化を大切にすることであると聞き、感銘を受けました。

終わりに、今後の同窓諸兄のご支援をお願いし、あいさついたします。



第百回卒業式に参加して

同窓会副会長 田中 順

三月一日は第百回群馬県立高崎高等学校(高崎中学から延べ)卒業式が、小雨そぼふるなか、体育館で厳かに挙行された。全日制三百十四名。通信制三十四名。計三百四十八名の卒業生であった。驚くなかれ、皆勤賞は六十二名であった。私は二十年程前から卒業式に参加させていただき、毎年一度、生命が洗われるような感銘を与えられている。体調がすぐれず、或は欠かしてはならない会議があったりして二回は欠席せざるを得なかったが、楽しみにしている学校行事でもあった。

幸か不幸か、会長に命じられて同窓会祝辞を二十一世紀初頭、百回に当たる当日、申し述べる羽目になったとはいえ。OBとして誠に光栄の極みであった。卒業生諸君は、呼名に対して、大きな声で自己を主張していたことが強く印象づけられた。当たり前といば、ごく当たり前のことであるが。昨今の青少年の問題を想起しても、大変嬉しく、流石、百回生の名にふさわしい高崎生の振る舞いであった。新たな新進気鋭の若者を仲間を迎えることが出来たことは、同窓生としても祝賀至極であり、満腔の歓迎をするものである。

祝辞のなかで、私の不易の言葉であり、約十年前にも、PTA祝辞の中でも馬鹿

の一つ覚えよろしく、一九三三年、凶弾に倒れたケネディ大統領の就任演説の一文を引用させてもらった。卒業生より、いささかの年長者として今後の生き方について触れさせていただいた。奇しくも卒業生答辞の中で、いみじくも表現こそ違いますが、同一の意志を開陳していることに安堵し、共感をおぼえた。

ケネディのそれは、リンカーンのゲッツェイスバーグの名演説と共に白眉とされているものである。

アスクノット(Asknot)。問い給うな。國が諸君のために何をなし得るか、問い給うな。諸君が、諸君の國のために、何をなし得るかを問い給え。蓋し名言である。普通すれば、母校、地域社会、日本、全人類のために、主体性をもって行動すべきであるといえる。卒業生のそれは、「未来とは自分の手で作ってゆくものです。自分の能力をどう使い、どんな技術を修得して生き抜いてゆくかを考え、実践するからこそ、未来は、思い描いた未来たり得ると私は思います。新世紀を始めるという主体的に働きかけ!」

頼政神社境内に西向きの内村鑑三の碑がある。(I for Japan Japan for the world)を彷彿させるものがある。

(歯科医師 51期)



21世紀を迎えて

同窓会副会長 有田 喜一

激動の20世紀から期待の21世紀へと大きく時代が変化していますが、世界中に残された後遺症というか抱えた問題は山ほどあります。

地球温暖化、食糧問題、エネルギー問題、水問題、廃棄物問題、南北問題、人口問題、資源問題、宗教問題等々。

日本でも身近な問題として廃棄物問題、人口減少問題、少子高齢化問題、社会の構造問題、財政問題、不良債権問題等々。現在、日本はバブルの処理をどうするか大いにもめているが、考えてみればこれだけ大きな傷を負いながら、その影響は日本国内に限られているのはどうしてだろう。

アメリカのITバブル崩壊の後遺症は世界に影響を与えている。これは日本が土地とか目に見えるものに投資したのに対して、アメリカのそれはIT投資と称して世界の設備投資や在庫投資にまで影響したことを考えるとアメリカ経済の大きさを考えるべきなのか、または世界がアメリカ経済に依存している状況を考えるべきなのか考えさせられる問題である。それではこれからどんな世界観が必要なのであろうか。

どうやらそれに的確に答えられる指導者は世界中に一人もいないのが現状だろう。そんな困難な状況を察知してユーロ共同体を模索しているのではないだろうか。

日本は拡大膨張するアジア諸国の中にあってどんな方策を見つかるのだろうか。

日本は平成になってからすでに13年、不況になってから6年余り国や企業は大いに苦しんでいるのだが、国民は今ようやく失業問題に直面し始めている。これは日本の個人が世界的に見て予想以上に足腰が強い結果ではないだろうか。

これにデフレが追いかけてくるとなると企業は大変な状況になるのだが個人は耐えられる状況が続く気がする。

新しい世界観が芽生える時期がいつなのか、世界の動きを見てみるとそれほど遠くない未来、少なくとも2010年を迎える前に新たな21世紀のスタートを切るような気がします。

冒頭に述べたように多くの困難な問題が山ほどあるので、それを上手に片付けることが21世紀の日本を作るような気がします。

(興業化学工業(株)取締役社長 60期)



校歌に寄せて

通信制教頭 塩崎 猛雄

平成九年の秋、当時私の勤務していた土屋文明記念文学館で「風来の二詩人」という企画展を開催した。この企画展は文字通り風にあふき寄せられたようにふらつと上州にやってきた二詩人、室生犀星と草野心平の足跡を検証しようとするものであった。準備段階では直筆資料を集めるのに困難を極めたが、そんな中、心平が作詞し、自ら揮毫した高島の校歌の額を、所蔵する高島の好意で借用できることになった。

文学館開館前、県ゆかりの作家の資料調査で高島を訪れたことがあった。私はこの時初めて味わいのある心平独特の筆致で記された校歌の額を目の当たりにしたが、鳥川の形容「セルリアンブルー」という一語が何にも増して斬新に感じられたことを覚えている。企画展開催中、予想通りこの額は来館者の注目を集めることとなった。

「高島高校百年史」には創立六十周年を機に校歌を制定した経緯が詳しく記されている。それによると作詞を依頼された心平は昭和三十二年二月十三日に来校、「ばらの香にむせびながら学生時代が過ぎるなんて素敵だ」といって感慨深そうに学校を見て歩き、翌日は観音山に登って上毛三山をはじめとした山々を眺め

たとあるが、その時の体験が「バラの香匂う學び舎にて友よ」や「上州の三つの山は遙かにかすみ」「榛名山白き雲湧き」「赤城山堅雪光り」というふうな言葉にたもと想像される。また、心平はラグビーの練習を見て「キビキビした選手の間作と、寸分の隙のない選手の服装に眼を見張った」というが、その感慨が「組むは精神と知恵のスクラム」という一節に集約されたのであろう。どの言葉からも豊かな自然に恵まれた高島と真摯に学ぶ高島生の子孫が的確に読み取れる。さらに、心平には上州の風にあつた詩が多いが、ここでも

「風吹きさすさぶ學び舎にて友よ」とある。これらを思う時、上州の風土をこよなく愛した心平の高島の校歌に込められた抒情といったようなものが切々と伝わって来そうに感じ深い。

さて、高島に勤務して一年半余、ことあるごとに校歌を歌い、最近では「セルリアンブルーの鳥川は長る、」のところに特に気持ちを入れて歌っている自分に気付いた。数年後にここに勤務することになるなどつゆ知らず、資料調査で高島を訪れ、心平直筆の校歌の額を目を見張ったことなど、今では懐かしい思い出になっている。

新通学路

昭

和十三年十二月大正天皇祭の翌日。その日から旧校舎と呼ばれる上和田町の学校から、人海作戦による引越し作業が始まった。

その時四十二期生はダブダブの冬服が似合う？まだ小学生気分抜け切れない数え年十四才。生まれて初めての重労働である。

学校を後にした一行の行列が神武天皇遥拝所の北の坂だったか、常仙寺の坂だったか定かでない。その時何を持たされたか、これも記憶から消えた。ただ小田三郎君が理科室の骸骨の標本をぶら下げ。小山藤一君だったか道場の扁額を持って寒風に帆掛舟のようだったのが妙に思い出される。



内山 信次

(42期)

坂を下りた所は蝦山酒造の赤レンガや蔵作りの街並みが残し、赤坂の満島自動車の乗合バスが走る旧中山道。常磐町の交番を右折して烏川の手前常磐橋の袂は、異様な匂いの酒造用アルコールの絞り粕の捨場。ここからが四年三ヶ月の通学路の始まりである。

烏川には千代橋、碓氷川には八千代橋、中の河川敷に小さな無名橋が架かっていた。上流の君が代橋、下流の聖石橋の間の橋を国家になぞられた命名は後に知ったが、橋は木橋で台風による出水でしばしば流出した。通学路は橋が修復されるまで下流の聖石橋経由となり、川越しはご法度であった。そのため市街地北部

からの通学はかなりの長距離になったが、一里以内の自転車通学は許されない。そこでご法度破りの川越し通学となったが、そのことで処分された話の記憶はない。ただ川越しの印象がよほど強烈だったのか後にしばしば夢に見た。夢の烏川は大河でとうとうと流れていた。

引越してからそう遠くないある日、河川敷の無名橋の付近に下校途中の生徒の黒山が出来ていた。中は果心居士の妖術よろしく香具師の演じる怪しの気合術である。太い火箸を小指で鉛のように曲げ、大石を縛り付けた竹竿を茶碗の糸底に気合いもろともびんと立てたり、解説書が飛ぶように売っていた。

三つの橋はその後、通し橋に改築され、その橋を夜間渡った記憶がある。当時生徒には管内宿泊の軍事教練が課せられて、兵営を出発して護国神社の裏山を回っての夜間行軍の帰り、真つ暗な通し橋はやけに長かった記憶が残っている。もう一つ早朝寒稽古にこの時ばかりは許されている自転車で薄暗い橋を渡り登校した。渡りきって誰かが暗い堤防から落ちたことがあった。それが誰であったか。

乗附の原は練兵所で人家はない。この夏の除草作業で一度行ったことのある新校舎までまだ一キロもありそうだが。寒風が吹き荒び生徒の行列は続く。

右手にゴミの焼却場の煙突が見える。今考えると誠に小規模で当時の市域も狭かったが、これで間に合った緩やかな時代であったのだ。

新校舎の北の変則十字路に野佛が数基立っていた。随分と田舎の風景である。右側の金ヶ崎用水は学校の北から西を回っても今も流れているが、野佛は何処かに整理されてしまった。

浅間風の吹く荒ぶ三学期、手袋や耳被いをした記憶は無い。手の霜焼けが崩れて久しく傷痕を残していたが、その傷も六十年の歳月が洗い流してしまった。来年九年で喜寿を迎えることになる。

バラ園のこと



特別記事

佐藤 晃一

グラフィックデザイナー
多摩美術大学教授

(62期)

私は高々に入るとすぐに美術部に入り、卒業するまでそこで過ごした。当時の部室は授業用の美術室や担当の塚田とほる先生の研究室などと共に、本校舎から南西に別れた別棟になっていた。そのエリアには一般の教室とはちよつと別な空気があり、いわば治外法権的な自由があった。

十数名の部員の多くは、登校するとまず部室に行き、そこにカバンを置いて必要に応じてあちこちの教室に向かうというような生活をしていった。南面の窓からは校庭の向こうに緑の風景が広がり、窓辺には各種のバラが咲き乱れていた。井上房一郎

氏丹精の有名なバラ園である。後年、私が東京でデザイナーとしての生活を始めた頃、ふとバラの香りに接して、忘れかけていた高々のことを鮮かに思い出したことがあったが、思えばバラの香りは私の最初の教養のようなものであった。

井上さんの思い出は多い。お宅にお邪魔しましたが、ただでも大いに刺激になったが、美術部の仲間と軽井沢の別荘をお借りして写生の合宿をしたのも実に楽しかった。私は井上さんにかわいがられた口で、こんなこともあった。ある日部室に現れて「佐藤君、あしたは学校には出なくていいからね」。翌朝お宅に行くと

美しい青いフォードが待っていて、それに乗って東京の展覧会を見に行くのだ。クレール展、ムナリー展、アフリカ美術展、どれも現在の私の血の一部となつていゝものである。

当時の美術部からは毎年のように芸大に入る先輩がいて、地方の高校としてはかなり珍しいことだった。部室には沢山の石膏像があり、木炭デッサンのためのイーゼルが林立していた。木炭はパンで消すのでいつもパンがあった。しかし、夜おそくまで絵を描き、若い美術論に話を咲かせていたのは、もちろんパンがあったからばかりではなかった。夏休みになると東京に行った先輩

たちも帰ってきて、いつそう活気があり勉強になった。山口薫の匂うばかりの大きな絵がある広々とした美術室の南北の窓をすべて開放して、それぞれ思い思いの絵に挑んだ。そんな時は女子校からも有志が加わって、文字どおり絵に描いたような「青春」がそこにはあった。四十年ほど前の話だが、今思い返すと恥ずかしいような、本心に夢のような気がする。

その後私はずっと東京暮らしだが、先年高崎に帰った折りに高々に行ってみたことがある。なつかしい校舎はすっかりなくなつていて、立派な校舎とよく整備された校庭がそこにはあった。聞いていたことでもあり、今の進学校にふさわしいものとして私は納得した。バラ園らしいものが見あたらなかったことも「仕方がないこと」として、感傷的になりがちな自分に言いよせさせた。しかし美術部のあたりまで来た時、とつぜん感情が込み上げてきてしまった。なくなつたと思つていたバラが、なぜかそこには少しだけ残つていて、かぞえるほどの花を付けていたからである。

わずかに花が残つていたことで、かえって私ははるかな日々が本当にはるかであることを知った。そしてなつかしさとも淋しさともつかぬ大きな感情につつまれたのである。

青春へのいざない



下村 博文

衆議院議員

(72期)

美しさへの憧憬がなさしめるものでもあったろう。

昭 和四十五年四月に高々に入学している。校舎は体育館を除いてまだ木造建築であり、校門をくぐると目の前に薔薇の花園がずっと奥まで続いていた。質実剛健の気風がみなぎり、ほとんど全員がゲタをはき自転車に乗って遠い距離を通学していた。そのパンカラ学生であっても、薔薇園とも言えるほのかなかぐわしい香りの涼風にふれると、校門に入ったとたんに誰でもが心やさしい青年になってしまふような、不思議な風情がかもしだされていた。毎日薔薇の手入れにいられていた井上房一郎氏（井上工業会長）に、皆が尊敬の念を持っていたのも自然の

昭 和四十五年四月に高々に入学している。校舎は体育館を除いてまだ木造建築であり、校門をくぐると目の前に薔薇の花園がずっと奥まで続いていた。質実剛健の気風がみなぎり、ほとんど全員がゲタをはき自転車に乗って遠い距離を通学していた。そのパンカラ学生であっても、薔薇園とも言えるほのかなかぐわしい香りの涼風にふれると、校門に入ったとたんに誰でもが心やさしい青年になってしまふような、不思議な風情がかもしだされていた。毎日薔薇の手入れにいられていた井上房一郎氏（井上工業会長）に、皆が尊敬の念を持っていたのも自然の

美しさへの憧憬がなさしめるものでもあったろう。

私が早稲田の教育学部に入り、わずか数年後だったが教育学部生として、再び高々を訪れた時には、既にちがう高々になっていた。校舎はすべて新しくなり、生徒達は靴をはき、みんなスマートに思えた。薔薇園もなくなっていた。同期の教育実習生が二週間の最後の日に、生徒達にプールに落とされたとき、水の冷たさに全身を震わせながらも、うれしそうに語っていたのを見ると、山ザルのパンカラさはまだ残っていたようであるが、母校高々は心の中だけになってしまった感じがした。

私達の時代は学園紛争のなごりが若干くすぶっており、生徒会にはそれらのメンバーが何人か入った。私は新聞部に所属していたが、昭和四十五年十一月の三島由起夫割腹自殺は私達高校生にも衝撃的で、高々新聞でも大特集を組んでいる。また当時の制服自由化運動は地元上毛新聞をもまきこんだ大論争になった。毎年の高々前高定期戦はTBSラジオの深夜番組バックインミュージックでその時期には毎週取り上げられ全国的に有名であり、翠巒祭のファイヤーストームも学年対抗の集団こぜりあいが見もので、下級生にとって伝統的恐怖におののく時でもあった。若き血潮をたぎらせて肩を組み、全校で讃歌を今でもがなっているのだろうか。



教育とコンピュータに たずさわって



特別記事

昭 和五十八年に高崎高等学校を卒業して、二十年近くとなります。

生来の筆不精ゆえ、同窓の皆様にはご無沙汰が続いており、大変申し訳ありません。最近、電子メールという気軽な通信手段が出現し、私のような不精者でも近況のやり取りなどができるようになってきたのは、救いです。

現在は、「不思議ネットワーク」という小さな会社で、小学生向けのマルチメディアを使った通信教育の仕事をしております。

そもそもコンピュータに関心を持ち始めたのは、高校時代でした。学

校の帰りに、友人とデパートのマイコン売場に入り浸り、熱心に研究？しておりましたのを、よく覚えております。当時のマイコンは、マウスもモデムもハードディスクもなく、カセットテープにプログラムを保存していました。ただし、値段だけは今よりも立派でした。マイコンがパソコンと名を変え、パソコン通信がインターネット、そしてブロードバンドと進化し、私たちの生活に溶け込んできたのは、この十、二十年です。私は大学で「教育」を自身の専門として以来、コンピュータに関する関心を、この教育というフィールドで活用できないか模索を続けており

小西 克哉

会社役員

(82期)

ます。前社、ベネッセコーポレーションでは、学校でコンピュータを活用するためのソフトの開発を行ってきました。

コンピュータを学習に活用する時に、いろいろな試みがあります。問題集、参考書といった既存の学習アイテムのマルチメディア化や、さらに教師の役割を代替しようという試みです。私は、それと別の「学習する環境」としての活用を考えております。子どもは、周りの人、物、状況とかかわり合いながら学んでいきます。これらを考慮し、一人ひとりが持つ能力・資質を十分に伸ばしていける環境を作ることが教育におけ

- ①子どもにとって本当に意味のある動機付けを行う。
- ②仮説を立てて実験し、さらに新しい仮説を考え出せる環境を提供する。
- ③自分自身で問題を解決できるように、適切な足場を用意する。

現在は、この学習の三要素を組み込み、コンピュータとネットワーク、そして人的ネットワークを融合することで、新しい学習環境を創造しようとして、努力しております。特に、全国百数十名のさまざまな分野の専門家（アドバイザ）にネットで自由に質問できるしくみは、多くの協力者を得て、日々熱心なやり取りがかわされております。同窓の皆様にも、ご参加をいただけましたら大変ありがたく存じます。

話は変わりますが、現在住んでおりますマンションに高崎高校の同窓生がおりまして、プライベートに、仕事にいろいろと交流させていただいております。このような物理的に接近したご縁は非常にまれですが、インターネット等の発達に伴い、距離と時間を越えて、容易にコミュニケーションがとれる時代となつてまいりました。この投稿を機に、同窓の皆様と新たな交流が始まりますことを大変楽しみにしております。

同窓会報
特集

来年50回を迎える『翠巒祭』について

翠巒祭

毎年開催され、県下でも有名な本校の文化の祭典、翠巒祭。その翠巒祭も、来年でいよいよ50回を迎えます。今回の特集記事は、この翠巒祭を取り上げたいと思います。

翠巒祭の歩み

本 校の「文化祭」は、昭和二十四年の十一月二十六日、二十七日に第一回が開催されました。「高崎高校百年史」

には、この「文化祭」を自治会文化部が主催し、プラスバンドの演奏や合唱、演劇などが行われたこと、さらに、県立高崎女子高校や市立女子高校のコーラスが招待され、演奏がされたことなどが記されています。昭和二十九年三月十八日には、「規約改正」についての生徒総会が開かれ、これまで「校友会」と並行して活動してきた「生徒自治会」が、ここに一本化され、「生徒会」が誕生しました。「生徒会」はその後、「文化祭」に本校独自の命名を決定し、昭和三十五年に、本校の「文化祭」は「翠巒祭」の呼称を用いるようになりました。当時の「高崎新聞」によると、「翠巒祭」の開催時期や他校生の招待の是非など、様々な問題があったようですが、学校側と生徒との話し合いの結果、五月の開催となりました。当時の開催日程と内容は、

二十七日 記念行事・講演会・

クラス別催物他

二十八日 プラスバンド・演劇・

ステレオ演奏・フオーク

ダンス・歌合戦

となつていました。なお命名された「翠巒祭」という言葉は、本校の応援歌の歌い出しにもあり、「緑の峰」という意味が、春に行われる文化祭の呼称としてふさわしいといふことで、全校に受け入れられたのでした。

その後の「翠巒祭」の主なトピックス

としては、昭和四十一年の元内閣総理大臣中曾根康弘先生の講演、昭和五十九年の「ファイヤーストームの復活」(危険行為がありすつと中止されていた)、平成二年の「学校対抗ディベート大会」の開催などが挙げられます。そして、平成十二年度の「翠巒祭」では、一年生全員によるパッチワークの「巨大壁画」(大きさは縦一〇・八メートル、横一六・八メートル。デザインは、アポロ十一号の宇宙飛行士が高島の校旗を肩面に立てている図)の製作、部活動中心の展示だけでなく、有志による「二十世紀特別展示」の実施、また本校に在籍され惜しくも若くして亡くなられた山田かまちさんの「山田かまち展」などが企画され、近年では最高の五千七百四十七人という来校者を記録しました。今年は、昨年度に引き続き、一・二年生による「巨大壁画」の制作と、昨年の「二十世紀特別展示」をうけた「二十一世紀未来展示」という企画を前面に出して、多くの来校者を記録しました。しかし、例年、学校内外から指摘があるように、文化祭という「文化の祭典」であるにもかかわらず、展示内容や発表の質の低下が問題になっており、この点の改善が大きな課題となっています。

翠巒祭の抱える課題...

翠巒祭の活性化

「翠巒祭」の質の低下の大きな原因は、学芸部の衰退にあります。ここ数

年「翠巒祭」をサポートする「翠巒祭実行委員会」の活動は目覚しく、ハードの面では充実しているのですが、肝心のソフトである学芸部の活動は大きく停滞しています。現に今年の部活動入部状況を運動部と学芸部で比較してみると、運動部の入部者が全体の64%であるに対し、学芸部は36%(実行委員9%)です。一部の学芸部を除き、運動部に比べ、総じて学芸部の人気が高いことがわかります。そこで、魅力的な学芸部づくりのために、考えられるいくつかの指針を示したいと思います。

(1) 学校内における定期的なプレゼンテーション

学芸部の中にはその存在さえも認識されていない部があります。部の存続のためにも、自分たちの部とその活動内容についても、生徒全員に知ってもらう機会を設けなければなりません。ただ入部募集の広告を掲示したり、ヒラを配布したりするだけでなく、自分たちの部の活動内容を実際に説明するプレゼンテーションが不可欠です。部内で相談し、定期的の実施すると良いでしょう。また、生徒会執行部に働きかけ、こうしたプレゼンテーションのサポートをしてもらうことも有効です。

さらに活動をアピールする有効な手段として、生徒会誌「群馬」があります。現在「群馬」には、部活動の紹介文が掲載されていますが、これだけでは不十分です。部の研究発表を積極的に投稿する

必要があります。過去の「群馬」を見ると、以前は多くの学芸部が研究発表を投稿していることがわかります。ところが、「群馬」の復刊した戦後昭和三十七年以降、こうした研究発表の投稿数は年々減り続け、ここ十年では、平成四年第三十一号の鉄道研究部「八高線」、物理部「マニピュレーターの研究」を最後にまったく姿を消してしまいました。部の機関誌を発行するのでも一つの手ですが、全校生徒が目にする生徒会誌「群馬」をぜひ活用すべきです。

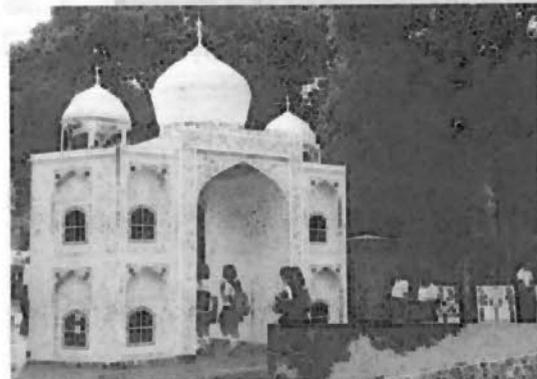
(2) 対外的な発表会やコンクールへの参加
学芸部は基本的に、運動部に比べて、活動しにくいという目標が曖昧になりがちです。運動部のように、試合で勝つという明確な目標があれば、必然的に毎日の練習にも活気が出てくるはずですが、学芸部にはそれが無いからです。そこで、学芸部も対外的なコンクールや発表会に積極的に参加する必要があります。現に、学芸部でも人氣が高く、在籍者の多い吹奏楽部や囲碁・将棋部、新聞部などは、コンクールや大会といった明確な目標を持ち、実績を残しています。顧問の先生に相談し、部として参加可能な発表会やコンクールを探して、積極的に応募すべきでしょう。

(3) 定期的なミーティングと
長期的な研究活動の実施
学芸部は、総じて部員が個性的なようです。しかし、各部員の自由な個性の発

第49回「翠樹祭」の風景



昭和35年5月27~28日
初めて翠樹祭の名称を使う



アーチ



巨大壁画

現に、時に部としてのまとまりを欠く場合もあります。魅力的な部活動にするためにも、部員相互の意見の交換が不可欠ではないでしょうか。部員が定期的に意見を交換し合い、部としての方向性を打ち出して、長期的な研究活動を実施することが必要です。例えば、以前生物部が「碓氷川の水質調査」を行って研究結果を「群馬」に発表していましたが、そうした長期的で地道な活動が、学芸部の活動としては評価されるのだと思います。

(4) 教員やOBとのコミュニケーション
各部には必ず顧問の先生方がついています。活動について行き詰まった時には、

顧問の先生方に積極的に相談するのが良いでしょう。きつと適切なアドバイスを与えてくださるはずですが、また、OBの先輩方に相談するのも一つの方法です。例えば、「鉄道研究部」などは、現役生とOBの先輩方の協力で、毎年「翠樹祭」で素晴らしい展示発表を行っています。また、マンドリン部も普段の活動や定期演奏会などでOBとの交流が盛んです。以上学芸部の活性化のために四点について述べましたが、要は各学芸部の部員の自覚と、自主的な活動が基本になります。学芸部の置かれた危機的状況を打破すべく、各部が積極的に活動してくれることを期待したいと思います。

翠樹祭活性化に向けた取り組み

これらの解決すべき課題を踏まえ、来年度の「第五十回翠樹祭準備委員会」が十月に発足しました。現在「翠樹祭準備委員会」では、充実した展示発表を実現すべく定期的な会合を持っています。以下に、生徒の計画している「第五十回翠樹祭」に向けた取り組みを記します。

- (1) 統一テーマに基づいた内容の濃い展示発表の実施
- (2) 定期的な会合の実施
- (3) 他校文化祭の長所の積極的な吸収
- (4) 生徒参加型の巨大オプシエの製作

以上四点の具体的な方策を「翠樹祭準備委員会」の生徒たちは考えており、特に(1)・(2)については、真剣です。「翠樹祭」に本校してきたさまざまな皆様から「展示内容がもう一つ」という感想をいただき、危機意識を持って臨んでいることが窺えます。「第五十回翠樹祭」でいきなり変わることはできないかもしれませんが、生徒とわれわれ教員も連携をしながら、充実した「翠樹祭」をつくっていきましょう。努力していきたいと思っています。ご意見・ご感想、または良い方策がありましたら、ぜひお寄せください。

論壇 冷戦の半世紀

岩崎 允彦



私が15歳で高崎高校に入学したのは、1950年（昭和25年）、これから20世紀後半の半世紀が始まろうとする矢先であった。今や、まさにその半世紀が過ぎて、次の21世紀が始まりつつあるが、ちょうど自分の人生のうえでも定年を迎えた私は、計算上、あと15年、何とか元気に余生を送ることができれば、前後に15年ずつ加えたこの20世紀後半の五十年というものが、自分の生きた時代の中心になるな、と思っている。

さて、それでは、この20世紀後半の半世紀とは、一体、どんな時代だったのか？ 外交官として国際政治に携わった私の目で見れば、それは、何よりも、「冷戦の半世紀」であった。すなわち、アメリカを盟主とする「西側」陣営とソ連を盟主とする「東側」陣営の間の、膨大な核兵器を背景としたヘゲモニー争いと、いつ、人類を滅亡させる核戦争が勃発するか分からない「核の恐怖」の、「始まり」から「頂点」へ、そして、最後には「終焉」へと至る、激動の半世紀であった。

1950年、高々入学直後の6月に、「朝鮮戦争」が勃発した。当時、日本を占領していたアメリカは、朝鮮へ兵員を

出動させることで手薄になる日本国内の治安維持のため、警察予備隊を創設して、日本の再軍備に乗り出す。さらに、日本との「単独講和」に踏み切って、日本を独り立ちさせ、自己の陣営に加えようとした。「単独講和」か「全面講和」かは、当時の論壇を二分した一大論争で、いわゆる進歩的文化人たちは、こぞって「全面講和」を主張した。当時、総合雑誌「世界」なぞにかぶれていた私は、一年生の秋の学内弁論大会で、この「全面講和」論をぶつた。今振り返ってみると、15歳の若気の至りもいところで、ソ連との講和条約など、いまだに結ばれていないではないか。

全世界的な冷戦現象の一片であったと分かってくる。日本人が一番身近に感じた冷戦は、「ベトナム戦争」ではなかったろうか。映像ジャーナリズムの発達のおかげで、戦火におびえるベトナム市民たちの悲惨な姿や、孤独な苦戦を強いられる米兵たちの虚無的な姿を、私たちは、毎日のように、すぐそこに感じていた。そのような戦争が十年ほど続いたのち、1975年、サイゴンが陥落して、「ベトナム戦争」は終わる。その直後、私は、統一ベトナムの首都ハノイに、新しく開設された大使館の館員として赴任した。戦火こそ止んではいたが、戦争の爪痕はまだなまましく残っていた。外国人も免れることのできない厳しい窮乏生活であった。共産主義体制というものの重苦しさも肌で実感した。

1979年末、ソ連がアフガニスタンに攻め込むと、冷戦の対決は一気に厳しくなった。アメリカとソ連は、世界の各所で、現地の紛争に巻き込まれ、紛争はエスカレートした。阿超大国が、核兵器を使って直接ぶつかり合う危険性も、急速に増した。1983年9月、ソ連が、オホーツク海で、韓国の民間航空機を撃墜し、数百人の死者を出した事件は、世界中の緊張を最高潮に高めた。時のアメリカ大統領、レーガンは、アメリカとソ連の最高指導者の間に直接の意志疎通がなければ、人類絶滅の核戦争の危機が急迫していると悟り、ソ連に対話を呼び掛ける。ソ連は、当時、高齢の指導者が頻繁に交替を繰り返していたため、これにすぐには応じられなかったが、やがて、1985年、若いゴルバチョフがソ連の指導者として登場してくる。

ここで、冷戦は、大きな転機を迎える。1985年秋の、レーガン・ゴルバチョフのジュネーブ首脳会談は、その証であった。ゴルバチョフの「ペレストロイカ」政策は、東欧に動きをつくり、1989年末、ついに「ベルリンの壁」が崩壊して、東西の冷戦は劇的な「終焉」を遂げる。私は、それまでに何度か、この壁をくぐって東西ドイツの間を往復し、その厳しい規制を身をもって直接体験していただけに、それがハンマーで壊され、人々に乗り越えられる情景をテレビで見たときは、まさに歴史の変わる瞬間を目の当たりにして、自ずと胸が熱くなるのを抑え切れなかった。

自分の仕事を通じて「核の恐怖」の深淵の深さをのぞき見た私には、この冷戦の「終焉」の持つ歴史的意義がよく分かる。1987年末、レーガンとの間で「中距離核戦力（INF）全廃条約」に署名したゴルバチョフは、そのとき「人類はこれで核の恐怖から解放される分水嶺を越えた」と語ったという。冷戦の半世紀を過ごし、冷戦の「終焉」を自分の眼で確かめ得たことは、私にとり何よりの、この時代に生きた証である。

（上武大学教授 52期）



同窓会だより

同窓会だより 1



高々関西同窓会の今昔
関西同窓会幹事 清水 英人

昭和三十九年東京オリンピックが開催され、数々の輝かしい記録を残し、これで日本は世界に伍していけるものと、誰もが確信した。技術の粋と謳われた新幹線も登場し、修学旅行でしか知らなかった憧れの関西が、三時間半一寸の近さになった。四十四年には、西のメインイベント大阪万国博覧会が華やかに幕を開け、世界中の国が千里丘陵に集った。日本中の人が、群馬県の人。時を同じくして、近畿一円の群馬県人が集まり、県人会が設立され、又群馬銀行大阪支店が開設されるに至った。

其時、群馬県からやって来た幹部行員の多くが、優秀なる我が高々の先輩諸氏であった。そんな折も折、誰云々となく、関西にも高々同窓会を作ろう！と声が上がった。当然、事務局を群馬大阪支店内に置き、年に一度先輩後輩が集い、若かりし頃の学生生活の思い出に花を咲かせ華を思い切り歌った。初代会長は福田一郎先生(31期)で参加会員は二十五名位であったと思う。

驚いた事には、当時集った先輩の多くが、すでにこの遙か関西の地にあって根を張り、活躍していたと云う事実であった。其後四十年頃から

この会も毎年定期的に開催と云う事で、二月の第三金曜日の夜六時から必ず開くと云う申し合わせで継続して来て居る。場所も一ヶ所に特定、大阪のト真中の道頓堀は「くいだおれ」の店と決め



十年程度前からは、もっと賑やかにとの発案で、高商、高工の三校合同で、多人数の参加を見るに到っている。別に高々独自で夏秋を兼ね、九月が十月に半期に懇親会を開いている。本年も九月二十七日に十七名の参加者を予定し、大阪駅前第一ビルの「神仙閣」で行う事になっている。

名簿上では関西在住者は三百名程度らしいが、残念ながら参加者は消費税率並である。とは云うものの七十名近くは「返信」にコメントがあり、なんと心強いばかりである。二十一世紀これから伝統ある高々のこの会を、どう進めて行けば良いのか色々と意見が出始めているのも事実である。多かれ少なかれ、関西文化を吸収した者にとつて、何か故郷へ発信出来ないものかと思っている。

最後に役員を紹介してこの稿を閉じます。

- 会 長 平形 行雄 (36期)
 - 同 代 行 齊藤 格司 (41期)
 - 監 査 黒岩 保昌 (49期)
 - 事務方 糸田 博史 (68期)
 - 会計幹事 清水 英人 (54期)
- 事務局は群馬県大阪事務所内。
(清水塗装店 54期)

同窓会だより 2



五〇会(卒業後五十年記念)同窓会
八木 資親

見慣れた顔、久しぶりの懐かしい顔、そして「ハテ」誰だったかなと思ひ出せない顔も一、二。そろそろ古稀を迎えること、更に卒業五十年という節目の年を記念する同窓会会場の越後湯沢・湯沢グランドホテルに四十八名の同士が集まったのは、去る九月九・十日であった。

折しも大型台風十五号が列島を縦断するとの予報に逆らつての強行であったが、古稀を迎える所感に「若干の体調不良部分はあるが、七十になるなんて意識は全くなく、未だ総てに現役」という、老いて益々盛んな猛者が多かったこともあって、その賑やかさはアルコールが入って最高潮に達し、閉会後も三・三・五・五昔話に花が咲き、多くの諸兄は正確な就寝時間の記憶がなかったのは。

高崎中学入学が昭和二十年という第二次世界大戦(太平洋戦争)終結の年であり、軍国調一色から、お仕着せではあったが自由主義への目まぐるしい一大変化と、敗戦後のお定まりの貧困生活を体験した青春時代、そして社会に出てからは、一次・二次のオイルショックを乗り越え、所謂高度経済成長の恩恵を享受した、極めて波乱に富んだ人生を歩んできた、総括できるのではないかとこの声で締め括られたようである。

更に圧倒的支持率を持続する小泉構造改革内閣の今後、景気の低迷、ひいては株価の急落、失業率の増加そして外務官僚による公金横領問題(善良な関係の方々には乞うご容赦)等に関する議論もかまびすしかったが、翌朝七時三十分からの朝食には、全員が何喰わぬ顔で席に着き、ましてやアルコールを要求するタフガイがかなりいたのには、唯驚きあ

五〇会同窓会は、年一回の總會と、地元高崎と東京に於いて懇親同窓会を随時開催、略五十名前後の参加者を得て、毎回大変な盛り上がりを見せるほか、ゴルフ会も高崎と、東京地区(主として東京・神奈川・千葉・埼玉)の有志が、相互に参加し年二回それぞれ開催、今もって距離を縮め合う元気を誇示する向きも少なくない。

終わりに、元氣者も多いが、既に五十四名の同窓の友が鬼籍に入ってしまった。あらためて心よりご冥福をお祈りする次第である。

尚、五〇会同窓生の動静は、卒業生(同窓会会員名簿)三百十六名、物故者(前述のとおり)五十四名、住所不明者三十二名、音信不通者十名、常時連絡可能者二百二十名の現状にある。

(高崎市南公民館館長 50期)



(1) 会員名簿が来年六月に刊行されます

会員名簿は五年毎に増補・改訂して刊行されており、来年度は新版を刊行します。この準備作業がすでに始まり、会員の皆様のもとには、現況調査のながきが届いていると思います。返信はがきのこちらへの到着期限は十一月五日ですが、お忘れの方は大至急ご投函願います。正確な会員名簿作成のため是非ともご協力をお願いします。また、現況調査はがきが届いていない同窓生をご存じの場合は、お手数でも同窓会事務局までお知らせ下さいませ幸いです。

現版の会員名簿の索引がわかりにくいのご指摘が多く寄せられておりますので、新版では完全五十音順として利用しやすくします。ご不審のことがありましたら、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

なお、本同窓会が発行する会員名簿は、卒業期順によるものだけです。職業別等の名簿は本同窓会とは一切関係ありませんのでご注意ください。

(2) 同窓会ホームページが変わりました

昨年から開設した同窓会ホームページは、開設したものの内容が更新されずに開店休業の状態で、会員の皆様にご迷惑をかけてきました。今後は同窓会職員が担当が随時内容の更新に努めていくこととなります。同窓会からのお知らせ、トピックス、関連行事の写真、会員の活動状況等を随時更新して、親しみやすいものにしていくつもりです。特に会員の活動状況については、

会員の皆様からの情報提供が不可欠です。出版、個展、業績等の情報をお寄せ下さい。まだ力不足ですが、将来は時間、空間が遠く離れた同窓生同士のコミュニケーションの場になれるようにしたいと思います。同窓会ホームページをよりよいものにするためのご意見、ご提案をお願いします。



□ ホームページアドレス
<http://www3.ocn.ne.jp/~tktkob/>
 □ Eメールアドレス
suiran@wonder.ocn.ne.jp

(3) 「指月庭」復活に協力します

故井上房一郎氏のご尽力で「指月庭」に咲き誇ったバラは、太平洋戦争後の荒廃した学園に潤いをあたえ、地域の人々にも親しまれ、「バラの香匂」と校歌にも詠み込まれて、高崎高校の象徴ともいえるものでした。その後、「バラ」やベンチの老朽化がすすみ危険となったため、翠穂会館建設工事に伴う整備事業で取り壊されました。現在、バラは校舎南側に植えられておりますが、学校を象徴するに足らぬ状態です。これを受けて学校から、「指月庭」のバラ復活の声が寄せられておりました。これを受けて学校から、同窓会はじめ関係諸団体の協力での実現を図りたいと、協力要請がありましたので、同窓会としては全面的に協力することにしました。今年中には造成工事に着手の予定です。

(4) 横田会長が県功労者に

十月二十七日、本年度の県功労者三十九人が、県より発表されました。本校関係では、横田会長が高崎商工会議所の運輸交通部長、副会頭を歴任し、高崎市の交通対策事業や産業界の発展に尽力した功績が認められ、商工分野での受賞となりました。

また、同会長は本同窓会常任理事、高崎商工会議所会頭でありました児玉貴氏のご逝去により空席となった同会議所会頭に就任しました。

(5) 翠穂セミナーについて

今年度の翠穂セミナーは、第一回に上武大学教授の岩崎允彦(52期)先生、第二回にシャンソン歌手のいしざかびんが先生をお招きして開催されました。どちらの講演も大変に好評を博しました。

- 第一回「冷戦の終焉——レーガンとゴルバチョフ—— 岩崎 允彦先生
- 第二回「秋のシャンソン弾き語りひととき」 いしざかびんが先生

母校だより

■各部の活躍・活動

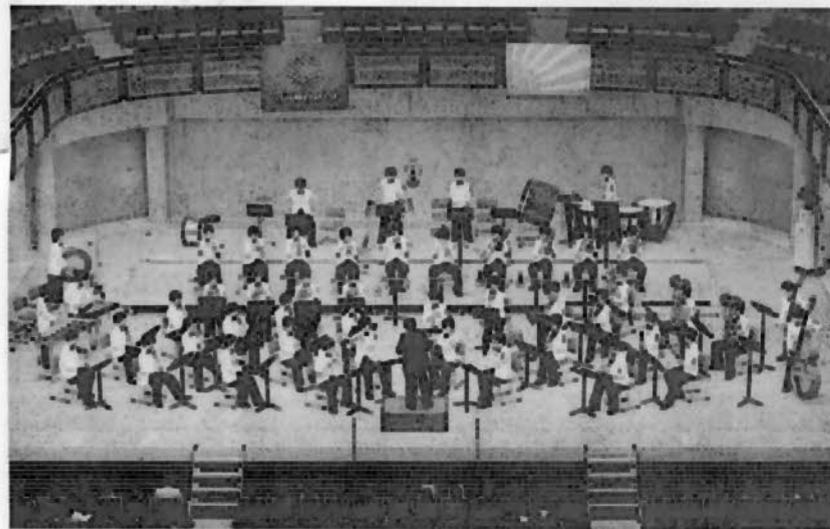
吹奏楽部

我々吹奏楽部は、今年度の群馬県吹奏楽コンクールにおいて金賞(県代表)を戴きました。勿論このことは、我々の努力が実を結んだ喜ぶべき出来事ですが、あくまでも一つの結果に過ぎないと思っております。

吹奏楽部は一年間に演奏する機会がたくさんあります。校内各行事や同窓会、クリスマスコンサート、そして六月に行われる定期演奏会。これら全てに対して常に全力で取り組み組んできました。特に生徒主体で計画するクリスマスコンサートや定期演奏会は、いかにして良い演奏会にしようかと毎日遅くまで部員や顧問の先生方と議論をして文字通り、手作り演奏会として開催してきました。

このように決して受け身にならず、前を見続ける姿勢があらゆる問題を解決し、結果として多くの成功を生んだものと思っています。コンクール金賞&県代表はその集大成でした。これからの活動にも是非、期待していただければと思います。

上原 光太



- (1)群馬県吹奏楽コンクール高校Aの部
・金賞(県二位)……………県代表
- (2)関東吹奏楽コンクール高校Aの部
・銅賞(関東十八校出演……………十二位)
- (3)全日本アンサンブルコンテスト県大会
・サックス四重奏
(中曾根賢太、中川太一、原田祐樹、伊藤慶太)

運動部

SPORTS

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

空手道部

- ①堀口林太郎 個人形 決勝進出
- ②堀口林太郎 個人形 決勝進出
- ③団体組手 ベスト8
- ④団体組手 ベスト8
- ⑤県新人大会(空手道連盟主催)
- ⑥堀口林太郎 個人形 3位

剣道部

- ①2回戦 高崎2-13吉井
- ②1回戦 高崎4-1前南
- ③2回戦 高崎2-13高商
- ④県選手権大会
- ⑤1回戦 高崎4-1前東
- ⑥2回戦 高崎3-2高北
- ⑦3回戦 高崎3-0利根商
- ⑧4回戦 高崎1-4常磐 ベスト8

弓道部

- ①団体 4位入賞 関東大会出場
- ②予選落ち
- ③関東個人選手権県予選
- ④2年 高階浩明 7位 関東大会出場

硬式野球部

- 春季関東地区高校野球大会県予選
- 2回戦 高崎7-10万場
- 3回戦 高崎9-18利根商
- 4回戦 高崎0-16高経附
- 全国高校野球選手権 群馬大会
- 2回戦 高崎3-4榛名
- 秋季関東地区高校野球大会県予選
- 2回戦 高崎3-5高崎東

サッカー部

- ①1回戦 高崎4-11富岡
- 2回戦 高崎3-10中央
- 3回戦 高崎4-11県央
- 4回戦 高崎2-11常磐(延長)
- 準々決勝 高崎2-13育英(延長)
- ②1回戦から3回戦シード
- 4回戦 高崎3-12前橋
- 準々決勝 高崎0-11前橋商
- ③1月から2月実施
- ④1年生大会
- 1回戦 高崎6-10太田工
- 2回戦 高崎2-10前橋
- 3回戦 高崎3-10洪川
- 準々決勝 高崎0-14前橋商
- 全国高校サッカー選手権県大会
- 1次予選シード
- 決勝トーナメント
- 1回戦高崎2-12館林(延長)
- PK3-4

山岳部

- ①9位

柔道部

- ①団体 3位
- 個人 桃澤亮介 2位

水泳部

- ②団体 出場
- ③団体 3位
- ④個人 81kg級 優勝
- ⑤個人 81kg級 優勝
- ⑥団体 3位

①総合 7位

- 二百m自由形 笠原啓祐 8位
- 百m背泳ぎ 松井利晃 4位

中島和希 8位

- 二百m背泳ぎ 松井利晃 4位
- 四百m個人メドレー 柴田晋 7位
- 四百mメドレーリレー 5位

(松井・柴田・中島・笠原)

- 四百mリレー 8位
- (笠原・松井・江原・中島)
- 八百mリレー 6位

(笠原・松井・江原・中島)

- ⑥二百m平泳ぎ 深澤 駿 4位
- 五十m背泳ぎ 松井利晃 1位
- 百m背泳ぎ 松井利晃 1位

中島和希 3位

- 四百m個人メドレー 堀口裕生 1位
- 四百mメドレーリレー 3位

(松井・松倉・中島・村松)

- 二百mリレー 4位
- (松井・松倉・中島・堀口)
- 四百mリレー 4位

(松倉・松井・中島・堀口)

⑦県高等学校選手権(関東大会県予選)

- 二百m自由形 笠原啓祐 7位
- 四百m自由形 笠原啓祐 8位
- 百m平泳ぎ 柳沢佳希 7位
- 二百m平泳ぎ 柳沢佳希 7位
- 百m背泳ぎ 松井利晃 8位

- 二百m背泳ぎ 松井利晃 7位
- 百mバタフライ 五十畑央登 7位
- 二百m個人メドレー 松本協平 7位
- 四百mメドレーリレー 高麗貴史 8位
- (松井・柳沢・五十畑・笠原)
- 四百mリレー 6位
- (笠原・五十畑・松井・江原)
- 八百mリレー 7位
- (松本・潮・高麗・堀越)

スキー・スケート部

①回転

- 20位 黒田 英孝
- 27位 鎌田 豊
- 28位 松橋 茂実

以上3名関東大会出場

大回転

- 20位 黒田 英孝
- 29位 松橋 茂実

以上2名関東大会出場

②回転

- 29位 黒田 英孝
- 12位 松橋茂実

13位 熊内大志

- 大回転 15位 黒田英孝

ソフトテニス部

①団体

- ベスト8 大林・小佐野組
- 伊勢・相澤組

ベスト16(関東大会出場)

②個人

- 大林・小佐野組 3回戦敗退
- 伊勢・相澤組 2回戦敗退

③団体

- ベスト8
- 4回戦 3組

⑥団体

- 3位

卓球部

①男子高校対抗

- 1回戦 高崎3-1高崎工
- 2回戦 高崎1-4中之条

男子シングルス 築瀬史貴 64位

③男子学校対抗

- 1回戦 高崎3-0玉村
- 2回戦 高崎2-3渋川

⑥団体は11月10日、個人は2月9日、10日に実施予定

⑦強化大会

男子シングルス 武井 剛

築瀬史貴

鹿内秀実 4回戦敗退

テニス部

①団体戦 第3位

③団体戦 第3位

シングルス 都筑亮太 第3位

板橋リリオ ベスト8

⑥団体戦 第3位

- シングルス 都筑亮太 優勝
- 板橋リリオ 第3位

ダブルス 都筑・板橋組 ベスト8

⑦第8回サマーチャレンジシカップ

ダブルス 都筑・板橋組 優勝

①1回戦 高崎1-5桐生

軟式野球部

①1回戦 高崎1-5桐生

- ③2回戦 高崎1-8桐工
- ⑥2回戦 高崎0-9館林

バスケット部

①準決勝 高崎80-84太田工 第3位

③準決勝 高崎85-75樹徳

決勝 高崎85-87高商 第2位

⑦全国選抜優勝大会 県予選

準決勝 高崎56-59前商 第3位

バレーボール部

①4回戦 高崎2-1桐生

準々決勝 高崎0-2前橋 ベスト8

③4回戦 高崎2-0中央

準々決勝 高崎0-2伊勢崎東

⑦西毛地区大会

2回戦 高崎2-0富岡

準決勝 高崎2-1農大二

決勝 高崎2-1高崎北

ラグビー部

①準々決勝 高崎7-9前橋 5位

③インターハイ予選兼選手権大会

予選リーグ 高崎49-13樹徳

決勝トーナメント

1回戦 高崎69-0高商

準々決勝 高崎31-14前橋

準決勝 高崎0-70農大二 3位

⑥1-2月に実施予定

陸上部

①四百m 樋口好宏 5位

八百m 樋口好宏 2位

五千m 関 敏則 2位

五千mW 柳澤健人 1位

新井隆太 2位

福田宏治 3位

百十mH 北嶋将志 4位

四百mH 北嶋将志 1位
4×四百mR

(樋口好・中山・神戸・北嶋) 3位
八種競技 清水和彦 6位
総合41点 第3位

②八百m 樋口好宏 2位

四百mH 北嶋将志 1位
五千m 関 敏則 8位

④八百m 樋口好宏 予

四百mH 北嶋将志 準
八百m 樋口 好宏 予

⑤三千m 関 敏則 8位

四百mH 北嶋将志 準
八百m 中山拓紀 1位

⑥八百m 中山拓紀 1位

瀧川聡志 2位
藤井裕基 5位

千五百m 中山拓紀 1位
関 敏則 4位

五千m 関 敏則 2位
高橋優一 3位

飯塚淳司 4位
百十mH 樋口智幸 2位

四百mH 神戸悠希 1位
三千mSC 新井正典 4位

4×四百mR (宮近・中山・瀧川・神戸) 5位

棒高跳 高田裕弥 4位
やり投 片山裕之 3位

⑦県高校対抗 高田裕弥 5位

四百m 樋口好宏 4位
八百m 中山拓紀 2位

千五百m 中山拓紀 3位
関 敏則 4位

五千m 関 敏則 3位
百十mH 北嶋将志 3位

四百mH 北嶋将志 1位
神戸悠希 6位

三千mSC 新井正典 6位
五千mW 柳澤健人 1位

新井隆太 2位
円盤投 片山裕之 6位

やり投 片山裕之 1位
高田裕弥 3位

4×四百mR

(樋口好・中山・神戸・北嶋) 4位
総合58点 第3位

⑦関東高校選抜新人 千五百m 中山拓紀 2位

五千m 関 敏則 4位
やり投 片山裕之 4位

⑦県高校駅伝

1区 関 敏則 3位
2区 中山拓紀 2位

3区 高橋優一 7位
4区 飯塚淳司 3位

5区 瀧川聡史 4位
6区 新井正典 3位

7区 俣田洋平 12位
総合 2時間18分39秒 第4位

⑦県選手権 八百m 樋口好宏 1位

千五百m 関 敏則 4位
中山拓紀 6位

五千m 関 敏則 6位
五千mW 柳澤健人 1位

四百mH 北嶋将志 2位
4×四百mR

(樋口好・中山・神戸・北嶋) 4位

⑦関東選手権 千五百m 関 敏則 8位

五千m 関 敏則 5位
五千mW 柳澤健人 6位

新井隆太 8位

バドミントン部

①団体 高崎1-2太田

シングルス 相馬 5回戦
中島康・清水裕 4回戦

③1回戦 高崎3-1富実
2回戦 高崎1-3伊東

⑥団体 1回戦 高崎対前工 (11/17予定)

ダブルス 清水裕・中嶋組 4回戦
1年シングルス 遠藤・狩野 5回戦

⑦高崎市民大会 シングルスB級 準優勝 戸塚裕二
シングルスC級 優勝 仲丸貴博

ダブルスB級 優勝 戸塚・相馬組
ダブルスC級 優勝 中嶋・清水裕組

⑦高崎市高校生大会 優勝 戸塚・相馬組
⑦群馬県高校生大会 3位 中嶋英人



将棋・囲碁部

将棋 第28回群馬県高等学校将棋選手権大会

囲碁 個人戦 伊藤 進 準優勝

第25回全国高校囲碁選手権大会 個人戦 堀米顕久

第25回全国高校総合文化祭 団体戦 堀米顕久

第16回関東高校囲碁選手権大会 団体戦 平良・堀米・中野

新聞部

第30回全国高校新聞コンクール (朝日新聞社・大東文化大学主催) 奨励賞 受賞

平成13年度 県高校新聞コンクール (上毛新聞社主催 県教育委員会後援) 県教育長賞 受賞

文芸部

第16回全国高校文芸コンクール 小説部門 優良賞 受賞 3年 小此木克之

マンドリン部

平成12年度 群馬県マンドリン フェスティバル 奨励賞

百人一首同好会

第9回 高校百人一首かるた大会 B級 5位 武井 剛

10位 佐藤洋一
12位 小池 明

第7回 高等学校百人一首かるた学校対抗戦 第4位 (武井・小池・佐藤・中田・豊辺) 県高校百人一首かるた関東予選

18位 佐藤洋一
20位 武井 剛

31位 中田 聡
33位 豊辺将嘉

鉄道研究部

「群馬県交通フェスタ」(群馬県主催、9月30日(日)群馬県庁)に展示。

第55回定期戦

先輩の作り上げてきた伝統を更に発展させ、第55回高前定期戦において、高々生全員で勝利を勝ち取る。それが私の信念であった。

定期戦を知らずにこの高々へ入学してきた私ではあったが、翠巒祭実行委員会を経て定期戦実行委員会へ入会した。年に一度高々生が一丸となって前高にぶつかっていた。私はすぐにこの華々しい行事の虜になった。そして、機会に恵まれ、三年目には定期戦実行委員長を務めさせて頂くことになった。

今年の定期戦は最後までどちらが勝つか分からなかった。終わってみれば六点点差の僅差で高々が勝利をつかんだ。それだけの勝負が繰り広げられた。特に一般対抗では去年に続き、二年連続で勝ち越すことが出来た。これも定期戦前日までの、多くの高々生の熱心な練習と努力によるものと深く感謝している。閉会式の後で舞った「富士の白雪」がとても印象的で、勝利をより強く感じさせてくれた。

全高々生の頑張りのもと、我々は二年振りに王座を奪回した。

全員で団結して勝利を勝ち取るという定期戦の醍醐味を多くの人に体験してもらう機会作りに関わることが出来て大変光栄に感じている。

定期戦の永遠の伝統と高々の勝利を祈って。
(第55回高前定期戦実行委員長 川崎 友之)

進路状況 (全日制) ()内は現役

大学	年次	11年	12年	13年	大学	年次	11年	12年	13年
北大		11(8)	6(4)	8(4)	慶應大		61(44)	75(55)	55(46)
東北大		15(10)	21(17)	19(15)	早稲田大		62(37)	67(49)	64(49)
筑波大		3(3)	7(6)	8(7)	中央大		51(41)	53(44)	52(41)
千葉大		13(10)	6(6)	5(3)	明治大		65(50)	55(39)	63(46)
群馬大		30(28)	24(20)	28(25)	上智大		4(1)	5(2)	7(5)
(医)		4(3)	8(6)	9(6)	立教大		12(12)	10(9)	19(16)
埼玉大		9(8)	2(2)	3(2)	学習院大		16(8)	6(2)	11(8)
東京大		14(8)	15(13)	17(16)	青山学院大		23(18)	19(6)	13(10)
一橋大		3(3)	7(6)	2(2)	法政大		35(24)	38(28)	35(28)
東工大		10(9)	11(9)	3(3)	日本大		43(35)	49(34)	37(30)
横国大		7(2)	8(6)	8(6)	東京理科大		105(84)	78(64)	91(70)
新潟大		22(20)	11(9)	13(11)	芝浦工業大		25(22)	20(15)	28(24)
金沢大		5(5)	3(3)	7(7)	同志社大		8(5)	9(5)	4(1)
信州大		3(3)	4(4)	1(1)	立命館大		23(16)	23(19)	28(25)
名古屋大		1(1)	4(1)	4(4)					
京都大		0(0)	3(2)	3(3)	高経大		9(8)	11(8)	5(5)

第55回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
/	/	水泳	9	0
		駅伝	6	3
		綱引き	0	9
		玉入れ	9	0
		ソフトボール	6	3
		卓球	3	6
		陸上競技	6	3
		ソフトテニス	6	3
		バレーボール	4	5
		バスケットボール	5	4
0	6	柔道	/	/
6	0	剣道		
6	0	弓道		
6	0	空手道		
0	6	サッカー		
0	6	ラグビー		
0	6	硬式野球		
0	6	軟式野球		
0	6	硬式テニス		
36	48	小計	54	36
84	前高	総合	高高	90

人事異動 (平成13年度)

退職者

数学 関口 穂積

転任者

校長 小林 克茂 前橋商業高校から

日本史 渋谷 正章 高崎北高校から

英語 川崎 洋一 伊勢崎東高校から

数学 井坂 葵 太田高校から

国語 濱野 雅樹 沼田女子高校から

地理 西澤 南 富岡高校から

数学 篠原 浩一 万場高校から

保健体育 清水 明宏 地公臨

事務職員 須水由紀夫 桐生工業高校から

転出者

校長 桜井 直紀 前橋市教育委員会
教育長に

数学 田村 仁 松井田高校教頭に

国語 町田 仁 桐生女子高校へ

地理 田村 修一 前橋西高校へ

英語 長岡 秀一 太田高校へ

生活一般 田村 知恵 安中実業高校へ

事務職員 飯塚 正明 吉井高校へ

高高同窓会 予算決算報告

費目	平成12年度予算	平成12年度実収入	備考
前年度からの繰越金	689,874	689,874	
入会金	2,920,000	2,916,000	全日制324人
維持会費	6,000,000	5,438,960	1,855人
利息	2,126	1,526	
雑収入	10,000	46,000	100周年記念ピアノ・ネクタイピン代等
合計	9,622,000	9,092,360	

費目	平成13年度予算	前年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	629,281	689,874	△60,593	
入会金	2,920,000	2,920,000	0	
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利息	1,719	2,126	△407	
雑収入	10,000	10,000	0	
合計	9,561,000	9,622,000	△61,000	

費目	平成12年度予算	平成12年度実支出	備考
会議費	1,000,000	817,520	総会・理事会補助等
祝賀費	550,000	736,263	ネクタイピン・卒業証書九折・叙勲者記念品代等
随別費	300,000	180,000	平成12年転退職員へ
慶弔費	200,000	57,420	葬儀花輪代等
通信印刷費	500,000	263,265	維持会費納入札状、業書代等
旅費	100,000	54,000	京浜同窓会出席者等
会報発送費	2,000,000	1,588,365	
同窓会報費	1,800,000	834,213	
事務費	1,500,000	1,304,743	人件費、事務用品代等
同窓会長賞費	150,000	116,518	文館代
補助費	600,000	600,000	図書館、翠雲体育会へ各30万円
雑費	300,000	124,410	維持会費振込手数料・コピー機等
予備費	622,000	286,362	電話料金等
合計	9,622,000	6,963,079	

費目	平成13年度予算	前年度予算	増△減	備考
会議費	1,000,000	1,000,000	0	
祝賀費	800,000	550,000	250,000	
随別費	300,000	300,000	0	
慶弔費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	500,000	500,000	0	
旅費	100,000	100,000	0	
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,800,000	△800,000	
事務費	1,800,000	1,500,000	300,000	
同窓会長賞費	200,000	150,000	50,000	
補助費	600,000	600,000	0	翠雲体育会・図書館
雑費	300,000	300,000	0	
予備費	761,000	622,000	139,000	
合計	9,561,000	9,622,000	△61,000	

差引残高 2,129,281円

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	金額
利息		3,002,400円
		2,890円
合計		3,005,290円
支出の部	なし	
差引残高		3,005,290円

特別会計積立

収入の部	金額	支出の部
前年度からの繰越金	3,005,290	なし
平成12年度通常会計より	1,500,000	
利息	6,000	
合計	4,511,290	

第100回高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

記念すべき第100回の新年総会は、私達71期が担当させていただきます。ただ、私達71期が担当させていただきます。同窓会の新世紀の幕開けとなります。諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めてまいります。

懇親会におきましても一工

夫をこらしてまいりますので、ご期待ください。

同期の方々、先輩後輩の方々お誘い合わせのうえ、一人でも多くの同窓生の皆さまのご出席を心よりお待ちしております。

期日 平成十四年一月十六日(土)
時間 午後三時より
場所 高崎ビューホテル
会費 五千円
(当番期71期代表 坂本 正樹)

第8回 高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

- 実施日 平成13年10月17日(水)
- コース 響の森カントリークラブ (群馬県会津村指田)
- 参加人員 82名(52期～92期)



順位	氏名	OUT	IN	GRS	HDCP	NET
優勝	高橋 清 (53期)	48	44	83	22.8	70.2
準優勝	石田 安利 (55期)	40	40	80	8.4	71.6
第3位	小野理徳雄 (66期)	39	38	77	4.8	72.2
第4位	長井 誠 (69期)	44	47	91	18.0	73.0
第5位	佐藤 義夫 (58期)	42	41	83	9.6	73.4



同窓の皆様の多大なる御協力のおかげで、会報35号が発刊されました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

御多忙の中、貴重な原稿やお写真を寄せ下されまして、まことにありがとうございます。

(本部幹事会)

○維持会費の納入について
平成14年度の維持会費の納入をお願い致します。納入については、同封の払込取扱票(加入者名「群馬県立高崎高等学校同窓会」)をお使いください。詳細については払込取扱票の裏面に記載してありますので、よくご確認ください。